

とみた児童クラブ第4 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（日本放課後児童指導員協会）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2025年3月 21日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	<p>・クラブとしての基本方針が明確に言語化されていて、共有化が図られているとともに、基本方針に則った実践の成果等に関するアウトプットもされており、とても望ましい状態が維持されている。</p> <p>・組織の運営管理についても、個々の職員との 1on1 ミーティングや人事評価など、積極的な取組がなされていることで、職員間の共通認識が持ちやすくなっていることがうかがえる。また、職員倫理の徹底もされている。</p> <p>・福祉サービスとしての衛生管理や危機管理なども徹底されており、保護者にとっても安心感の持てる充実したサービスになっている。</p>	A
内容評価基準 項目1～8	子どもの継続率なども視野に入れながら、子どもたちが安心して通い続けられるように様々な努力を成されていることが評価できる。	A
内容評価 項目 9～16	子どもの活動時の危機管理や衛生管理、おやつ提供時の配慮事項などを徹底できていることが評価できる。	A
内容評価 項目 17～20	アセスメントシートを活用した個々の子どもの成長や変化を継続的に行っており、さらに保護者との共有も行えていることが評価できる。	A
総 評	<p>クラブ内研修や個々の職員に対するきめ細やかなミーティング、さらには人事評価の導入など、今後の放課後児童クラブにとってますます必要となってくる同僚性の確立にとって、大変示唆に富んだ取組をされている。</p> <p>また、小学校連携の担当者を設置し、通信等も継続的に配付するなどして、積極的な連携に注力してきたことから、クラブ行事の中で学校敷地内での火おこしや宿泊なども実現できるようになっている点も高く評価できるところだろう。</p> <p>なお、こうした様々な体験活動においては、子ども会議を開きながら、丁寧に子どもの意見を取り上げ、子どもたちが主体的に生活できるように配慮されている点も特筆すべき点である。</p> <p>こうした取組は、子どもの退所状況や出席状況を数値化してわかりやすい評価をすることによって支えられている。数値化によるわかりやすさはたしかに評価できるが、その数値化の理由や背景についてもさらに視点を向けてみることをおすすめしたい。</p> <p>なお、ヒアリングの最後に、過去の対応の反省点が、現在の改善につながったという報告を受けたが、自身の失敗から学んでいくという反省的実践家としての姿勢は、支援員として非常に大切な姿勢であることを改めて確認することができた。</p>	

ながおキッ Z 児童クラブ第4 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（日本放課後児童指導員協会）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2025年3月 21日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	<p>・クラブとしての基本方針が明確に言語化されていて、共有化が図られているとともに、基本方針に則った実践の成果等に関するアウトプットもされており、とても望ましい状態が維持されている。</p> <p>・組織の運営管理については、施設単位ではなく、「ながおキッ Z」全体としての共通認識をより一層進めていくことが望ましい。様々な施設による特性の違いも踏まえて、共通認識を進めていってほしい。</p> <p>・福祉サービスとしての衛生管理や危機管理なども徹底されており、保護者にとっても安心感の持てる充実したサービスになっている。</p>	A
内容評価基準 項目1～8	子どもの継続率なども視野に入れながら、子どもたちが安心して通い続けられるように様々な努力を成されていることが評価できる。	A
内容評価 項目 9～16	施設上の困難さに対して、避難経路の確保など子どもの安全に対して苦慮しながら、改善しようとしている点が評価できる。	A
内容評価 項目 17～20	アセスメントシートを活用した個々の子どもの成長や変化を継続的に行っており、さらに保護者との共有も行えていることが評価できる。	A
総 評	<p>個々の子どもについての日常的な記録を徹底していることについて、高く評価ができる。特に、登所した日の子どもの記録は必ず残すようにするというノルマを職員間で堅持している姿勢は、他クラブに類を見ないものではないだろうか。さらに、記録を踏まえてアセスメントシートへアウトプットし、そのシートを活用した保護者との懇談という流れも確立しており、記録を中心としたシート類が以降の職務へ有機的に関連している点も高く評価できる。このように職務を遂行しているからこそ、前期と後期のアセスメントシートの内容を変えてみるなど、次々とバージョンアップが可能となっているように思われる。</p> <p>施設的には、保護者の駐車場利用、3階に位置していること、避難経路の確保などの防災上の問題も含めて諸々の問題を抱えているものの、それぞれの問題について現状から改善できることに取り組んでいる点も評価できる。</p> <p>また、これまでのクラブ内で起きた事例をもとに、職員間の倫理の徹底に努めており、特に子どもと職員のスキンシップについては、より一層焦点化しており、日常的な記録にまで残している点なども不断の努力として特筆すべき点である。</p> <p>今後は、9 施設間の連携をますます主任間のコミュニケーションを通して強めてほしいのと同時に、個々の施設の独自性をどのように発揮していくかという兼ね合いについても検討を重ねてほしい。</p>	

中島学童保育第3 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（日本放課後児童指導員協会）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2025年3月 21日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	<p>・クラブとしての基本方針が明確に言語化されていて、共有化が図られているとともに、基本方針に則った実践の成果等に関するアウトプットもされており、とても望ましい状態が維持されている。</p> <p>・組織の運営管理については、クラブ内もさることながら、学校に加えて地域内の他児童クラブ及び地域との関係性の構築についても積極的に努力されていることが評価できる。</p> <p>・福祉サービスとしての衛生管理や危機管理なども徹底されており、保護者にとっても安心感の持てる充実したサービスになっている。</p>	A
内容評価基準 項目1～8	子どもの継続率なども視野に入れながら、子どもたちが安心して通い続けられるように様々な努力を成されていることが評価できる。	A
内容評価 項目 9～16	障害のある子どもとのかかわりについて OT とも連携を進めながら、保護者への積極的な支援も進められていることが評価できる。	A
内容評価 項目 17～20	ハッピーシートを活用した個々の子どものアセスメントを継続的に行っており、さらに保護者との共有も行えていることが評価できる。	A
総 評	<p>他クラブと同様に登録児童の継続率が 95%と高く維持できていると同時に、職員の継続率も100%となっている点から、当該クラブの通所のしやすさ、職場環境のよさなどがうかがえる。また、学区の現状から見ても、まだまだ児童数が増加していく可能性があることから、今後の発展と同時に、増設等の課題も抱えていることが分かった。</p> <p>特に、懇談時の焦点になった点は、発達障害のある子どもとその保護者とのかかわりについてだったが、OT(作業療法士)との連携が円滑に進められていることで、子どもだけでなく保護者にとっても安心感が得られているように思われた。しかしながら、今後については児童クラブ側が全面的に支援するという方向性から、OTと保護者とが個別に連携できるようにして、児童クラブ側のリファールを推し進めていくことも検討してもらいたい。</p> <p>これまではあまり円滑に進めていくことが難しかった学校や地域コミュニティ、学区内の他クラブとの連携についても、個人的な関係性などもあり進展が見られている点は、とても喜ばしいことであり、結果として学校と他クラブとの懇談の場が設定されたり、地域の夏祭りへの参加が叶ったりという状況をつくり出せている。今後は、個人的なつながりではなく、組織同士の連携へと仕組化するために、書面での取り交わしなども検討することをおすすめしたい。</p> <p>また、年間計画の共有をした上で、日常的な記録と関連性を持たせながら、目標と計画を振り返るという一連の流れをつくってみてはどうかという助言も行った。</p>	

二福のびのび児童クラブ第5 点検評価 最終報告書

(特非)日本放課後児童指導員協会
点検評価委員会

評価担当者	中山 芳一（日本放課後児童指導員協会）	
	矢吹 真子（日本放課後児童指導員協会）	
実地評価 実施日	2025年3月 21日	
項 目	評価担当者からのコメント	評 価
共通評価基準	<p>・クラブとしての基本方針が明確に言語化されていて、共有化が図られているとともに、基本方針に則った実践の成果等に関するアウトプットもされており、とても望ましい状態が維持されている。</p> <p>・組織の運営管理については、この度の自己評価とこれまでの評価とのズレがわかる。当方としては、右のように評価したが、クラブ内でのすり合わせを行い、ズレについて向き合うことが望ましい。</p> <p>・福祉サービスとしての衛生管理や危機管理なども徹底されており、保護者にとっても安心感の持てる充実したサービスになっている。</p>	B
内容評価基準 項目1～8	子どもの継続率なども視野に入れながら、子どもたちが安心して通い続けられるように様々な努力を成されていることが評価できる。	A
内容評価 項目 9～16	子どもの活動時の環境構成に対して「動と静」という視点に基づいて、しっかり工夫がされている点が特に評価できる。	A
内容評価 項目 17～20	アセスメントシートを活用した個々の子どもの成長や変化を継続的に行っており、さらに保護者との共有も行えていることが評価できる。	A
総 評	<p>上述した通り、「動と静」を意識した環境構成が丁寧になされており、施設内の説明を担当支援員から受けた際にも、それぞれのねらいや意図がはっきりと伝わってきた。このように、担当支援員はそれぞれの職務にとっても真摯に向き合っていることがうかがえ、そのために今回の共通項目に対する自己評価を敢えて意識的に厳しくしたことがわかった。</p> <p>しかしながら、今回の担当支援員の当該施設に対する自己評価は、施設単位で完結する評価ではなく、同クラブにおける他施設の自己評価との間にズレを生み出すことになってしまっているため、このズレに対して施設間での共通認識やすり合わせを行い、クラブ全体での是正に取り組む必要があることを確認できた。</p> <p>一方で、内容評価については、施設単体の裁量で改善することが可能であるため、その改善スピードの違いから、全体的に評価が高くなっている。特に、当該クラブでは子どもたちの主体的な生活に対して注力されていることがうかがえた。例えば、宿題についても個々の子どもの意思を聴取して尊重するとともに、保護者とも相談と合意を得ながら進めている点などは、とても丁寧な実践が行えていると高く評価できる。</p> <p>また、アセスメントシートについても確かな取組がなされており、日常的な子どもの記録がアセスメントシートへ反映されていることも評価できた。</p>	